

電腦突破党HPで大好評だった「コマンダンテ戸田の、君に勧める突破者議員への途」

「コマンダンテ戸田の、君に勧める突破者議員への途」(1)

「私が議員になったれ！と決意した大きな理由」

=====

(初めに)

我が党HPの「キミも政治家をめざそう」(仮題)コーナーへの連続寄稿をこれより開始していくにあたり、まず、戸田は国会議員のことはさっぱり分からないし、府県議会のことも良く知らないの、話はもっぱら市議会議員のことに限るということと、「市民派議員」と言われる種類の議員でも、突破党議員ですら置かれている状況も、その人の価値判断も戦術も様々であるから、これらは戸田の私見として述べるものであって、それをどう受け止め、どう活用するかはあくまで各人の判断にかかるものであること、などをあらかじめお断りしておきます。

それでは、始まり始まり……

(私が議員になったれ！と決意した大きな理由)

最初のネタは「初心忘るべからず」の思いも込めて、しおらしくいきましょう。

私、こう見えても子どもが大好きの優しいおじさんです。共働きは片親家庭の児童を小学校の放課後に夕方までめんどろ見てくれる「学童保育」というものが、門真市では17小学校のうち7校にしかないのがずっと気になっておりました。

いきさつを言えば、昔の社会党系市長時代に開設していったのが、今4期めの保守系市長になってから開設ストップされてきたのです。こんな当然の子育て支援策ですら、「子どもは親が面倒見るもんだ、一部の者のわがままに予算を使うな」という思いやりのない保守的頑迷さと、「学童保育は共産党の支持基盤だから作るな」、というお門違いの偏見的政略のために放置されてきたのです。

そんな中でようやく、戸田の地元校区のお母さんが立ち上がって学童保育を作る運動がどうにか再建されて、戸田も事務局メンバーとして活動に参加してきました。

そのヒトコマとして、各会派議員にあれこれ要請しに行った時の2つの体験が、戸田が出馬決意する原因のひとつになりました。

そのひとつは、与党4会派のある議員に「あんた方に票を入れてもらったわけではないから」と冷たくあしらわれたこと。

腹の中ではどう思っていたとしても、そんなことは口に出して言ってもいいんじゃないでしょう。

いくら与党会派とは言え、サカキバラ事件が大きな恐怖をまき散らしていたにも関わらず、児童と親たちの不安を思いやらずに、自分の支持者でない市民は知ったことではないという対応を平然とする、こんなひどい議員がのさばっているのか、と唖然とさせられました。

もうひとつは学童保育運動をかねてから支援していた門真共産党議員の対応です。

支援はありがたいのですが、いまひとつ議会での対応が生ぬるくて(門真市共産党の名誉のために言っておきますと、今はビシッと闘っていますよ)、当時の会派間の申し合わせに配慮するあまり、常任委員会での審議記録をビラなどで公開してもらっては困る、という対応だったのです。

門真では「常任委員会は市民に傍聴させないし、記録公開すらない」、という閉鎖的状況が続いており、共産党は議員だけが閲覧できる記録をメモ再現して私達に見せてくれる、おかげで「与党4会派はこんなひどいことを言っているのか」がよく分かり、「これはぜひ市民に知らせて批判の声を起こしていこう」と思うわけですが、ここで「公開されたら申し合わせ違反になってしまってマズイから」と味方である共産党議員からストップがかかってしまうのです。

せっかく「事実にもとづく批判」の格好の材料があるのにビラに書けない、公開であるべきはずの議会記録を市民が使えない……こういうことがあって、「共産党議員頼みだけでは住民の闘いを切り開けない、非民主的な申し合わせを敢然と打破する議員を作らなければ運動は前進できない」と痛感したのです。

(あくまで3年ほどまえの門真共産党であって今は違いますよ……気配りの戸田やねえ……)

@「議会記録の公開」については、深く考えさせられました。(委員会審議だって所詮は形式的な代物、ということは百も承知の上で)

「公開しない」ことによって、ひとつには市民は議員にすぎるしかないから、ここから「あんただけに特別 に教えたる」という「議員の絶対優位」が生まれ、それが「市民に恩を着せる」とか「利権の温床」につながっていくこと、もうひとつは、市民が自由に見られない、ということは在野の豊富な知恵による検証を受けられず、従って議会内論議を発展深化させる可能性を閉ざしてしまっている(ある問題について議員よりはるかに詳しい専門家の市民はたくさんいるのに、その人らの知恵を動員できない)、ということです。

@ここから戸田は「当選したら全会派を敵に回しても、議会の情報公開をしたるぞ」と堅く決意し、それがHP に発展して旧来の閉鎖的体質議員らを慌てさせ、戸田攻撃を呼び起こし、一連の議会バトルにつながっていったわけです。

門真議会バトルの遠因は、子どもに優しい戸田オジサンの怒りの深さだった、というお話で第1話はオシマイ。(続く)

「コマンダンテ戸田の、君に勧める突破者議員への途」(2)

=====

議員はステキな商売だ！

=====

総裁のように何千万とか億の単位のカネをヒョイと稼げる人や、お金持ちでない一般ピープルはお立ち会い！
議員稼業の一番いい所は、税金によって自分の生活と高度に自由な活動を保証されていることだ。
所得総額で言うと、そこら辺の市議会で年収 1000 万円以上が普通、政令指定都市ともなれば年収 2500 万円以上、3000 万円にもなる。
ちなみに戸田の門真市はヒラの議員で年収 1200 万円程度、毎月の報酬が6 1 万円、調査研究費として6 万円、冬の一時金は 180 万円程になる。
手取りでは戸田の場合、年額 750 万円程度、毎月 51 万円程度、冬一時金で 140 万円程度になる。
・・・独身バツイチで扶養家族がいらないから控除額が大きい。
これは戸田の労働者時代の収入総額の 2.3 倍、手取りで 1.9 倍くらいにあたる。
(＊戸田の場合活動費支出が猛烈に多くてこれでも大赤字だが、普通は充分に間に合うはず)

大阪市になるともっとすごくて、毎月の報酬が 105 万円、これに調査研究費がなんと 55 万円もついて総額 160 万円、冬一時金だけでも約 260 万円、年収総額 2600 万円から 2700 万円(推定、ヒラ議員で)となる。
な～んだ、一流会社の係長か課長クラスか、大したことネーなあと判断されるムキももちろんあるでしょう。
でも多くの一般ピープルにとっては充分に高給取りと言っている。

さてこんだけの「高給取り」の仕事での拘束時間は、と言うとなんと驚くなかれ、ヒラの市会議員で年間出勤義務日数わずか 20 日程度、議運とか特別委・各種審議会のメンバーや各種委員長クラスでも 40 日程度でしかない。
(議長・副議長は例外で、中身はともかく公式行事への出席が多いので平日プラス土日も出勤が多く、市長並みのスケジュール)
これは、「議会は年に5場所(通常議会4場所プラス毎年議長らの役職交代のための5月臨時議会)」ということによる。
すなわち議員の出席義務は定例4議会の本会議と所属常任委員会(1議会で計4～5回が普通)と臨時議会(本会議のみ2回)プラスその他正規所属の会議のみなのでこういう日数になる。
正規所属以外の会議の傍聴や、各種行事への来賓としての出席や視察旅行参加は義務ではなく任意参加。まあ、これ

らを一通りになしても戸田のような無所属ヒラ議員なら年間合計数十日弱、という所だろう。またその大半には8時間拘束はめったになく、たいがい1～2時間程度で終わる。

義務出席の時以外は、何をどうしてようが基本的には自由である、というのが議員のステキな所なのだ。

@要するに、議員は各人の自由裁量で時間を使える度合いが非常に大きい。何を「自分の仕事」と認識するかはその議員の自由。義務出席である議会に於いてさえ、質問するのもしないのも自由だから、手抜きしようと思えばいくらでもできるし、スナックやゴルフで「市民と交流するのが仕事だ」と認識するのも自由、逆に調査研究、HP・通信作りや配布・懇談、各種政治活動に走り回るのも自由、しかもそれらの仕事量や内容に関わりなく、役職手当以外の収入は一緒、という「ちょっと不思議な世界」なのである。

@このことから、フツウの議員らが「仕事の実態」をバラされたくない、という感情に走るのもまた十分うなずけるだろう。世間一般の人に胸を張って説明する自信のない程度のことしかしていない、という実態が根底にあるということなのだ。

@最後に、同じ「自治体議員」と言っても、町村議員の場合は驚くほどの定収入であることはぜひ知っておいて欲しい。町議会議員で大体毎月手取り20万円前後、30万円あるところはめったにない。（年収総額で400万～500万が普通か。毎月の手取り15万円程度なんてところもザラにあるから大変だ。

これは要するに町村議会の場合は、議員専業では普通に生計を立てることすらできない＝生活の安定した人が片手間で名誉職的にやる仕事、という色合いが非常に強い、ということである。

志賀町議のウエストバンク砂川は、議員報酬月20万円程度と自分の薬局経営でやっとなんとかやっているわけだ。

@もひとつ付け加えておくと、報酬の高い政令指定都市では、分けられてその中で数人前後の定数の狭い枠になっているから、当選ラインが非常に高い。

大阪市での当選ライン6000票くらいを組織とカネと知名度のない素人が集めて当選するのは至難の業で、今だに市民派議員はゼロである。

・・・以上で（2）を終える。次は選挙に取り組む準備のことでも語ろうか。

突破者議員への途3；選挙に興味湧いたらここへ行け！

議員って結構オモシロそう、と興味湧いたキミ。オレも出たろかなあ、とチョットでも思うんだったら次の所へ行ってみることを勧める。

<1；図書館>

「選挙結果が分かる資料はどこですか？」と聞いて調べてみる。（選管の選挙結果報告や広報など）

@ 自分の街の議会選挙がいついつ行われているのか？

自治体議員の任期は4年で途中解散なんて大事件はめったにないから、通常4年ごとの同じ時期に選挙が行われる。

99年4月～95年4月・・・というパターンだったら、それは「統一地方選挙」型だということ。

（ついでに市長選挙のパターンはどうか、も調べておく。市議選挙とどう絡むかで選挙の様相も変わってくるので）もし統一地方選からずれた時期に行われているのなら、突破者議員としてはラッキーと言うべきだろう。

なぜなら、よそが選挙やっていない時にやるということは、選挙に詳しい人、組合や市民運動家などの応援が得やすいし、

人を雇う場合も人材が得やすいからだ。

（議会開催時期と外れる 1 月 2 月、4 月 5 月、7 月 8 月、10 月 11 月ならば市民派議員も応援に来やすい。）

（余談だが、普段西暦でしか考えていない者にとって、お役所の世界で圧倒的に使われている元号表記にはまってしまうが、これは慣れるしかない。同時に、キリスト歴が善とは思わないが、日本の天皇制時間＝元号押しつけには強く反対する立場なので、慣れつつも同化しない、というのが戸田の立場である）

④ その議会の定数と大体の当選ラインは？議会にはどんな勢力がいるか？

戸田もそういうことをほとんど知らなかった。この際調べてみよう。

毎回の選挙結果を見て、ビリで当選した人の票を調べればそれがおよそその当選ライン最低限と見ていい。

そしてその 100 か 200 上を自分にとっての最低当選ラインと踏めばいいわけだ。

ただしこのごろはやりの「定数削減」の動き（戸田は大反対だが、ここでは割愛）の情報も得ておくべき。

候補者の変動で当選ラインが大きく変わることもあるが、そういうことは選挙戦に踏み出せばだんだん判ってくるので最初は大ざっぱで十分。

議会勢力を見るときに我々にとってのポイントは、実は「市民派議員がいるかどうか」である。

共産党・公明党は絶対に党名を会派名とするからすぐ分かる。自民党などの保守・ブルジョア政党は政党名を名乗らない場合もあるが、大体は会派名でそれっぽい臭いプンブンで分かりやすい。

社民党や民主党系、小沢一郎ファンの右派の場合は、いわゆる市民派っぽい会派名を付ける場合があるからすぐには判りにくいけど、「事情通」に聞けばすぐ分かるだろう。

（なお戸田は、市民政党を指向する社民党は支持します）

ここでいう「市民派」は共産党も含めた議会政党による慣行的議会運営・議員のあり方に市民の観点から異議を唱え、支援組織の利害代弁者でなく、個人の良識と良心に沿って政治行動に自己責任を負う「寄らば大樹の陰」ではない議員、を想定している。

思想的には右でも左でもいいはずだが、右より元気青年の場合、どうしても「政権与党に入らねば政策実現できない」とか言って、結局大きい所にくっついてがるので、独立左翼か様々なレベルの市民活動家的な部分が「市民派議員」となる場合が多い。（市民派の資質を堅持した上で社民や民主に所属する、という議員もいる）

我らが「突破者議員」は「突破者」たらんとする限り、少なくとも客観的にはそういう「市民派議員」の範疇に含まれると考えていいだろう。

もちろん「自民党だけど突破者」という人材も大いにあり得るだろうが、そういう人は自民党でノウハウを教えてくれるだろうし、生活条件も我々と違うだろうから、ここでは対象外として話を進める。

そこで、

・市民派が全くいない場合――

他の議員とは違った議員として大いに売り込める。同時に今まで市民派議員が誕生できなかった地域の要因は何なのか、考えておく必要はある。

突破者の主張が珍しがられるという利点と、「どうせここは何も変わらないさ」というあきらめが同居しているだろう。

議会総体のぬるま湯的体質、市民常識とのズレなどを暴露して改革を訴える、という戦術が最も効果を発揮するだろう。

・市民派が一人・複数いる場合――

まあその市民派議員の集会などに出ていって、どんなことをしているのか、どういうタイプの市民が応援しているのか、当人がどんな人間なのか（キミにとって敬服できる人間か、いけ好かない人間か）、新たな市民派議員誕生を目指しているのかいないのか、などを調べてキミの方向や戦術を決めるのがいいだろうね。

<2;大きな本屋>

選挙のノウハウ本や体験記は、実は驚くほど少ないのである。大阪・京都の大きな書店を回ってみて戸田も意外だった。なぜ少ないのか？ 需要が少ないから供給が少ない、という面はもちろんある。つまり自立的に立候補しようとする人間が少ないから、というわけだ。

しかしそれだけではない。

根本的な原因は、今の公職選挙法(公選法)が選挙を不自由にする面が強い悪法であるために、実際に当選するためにはいい意味でも(民主主義の徹底の方向で選挙の自由を広げる闘い)、悪い意味でも(金権腐敗選挙ほか)、公選法の隙間を縫って(企業選挙など法に違反して)選挙戦術が行使されている場合が圧倒的に多い、という現実にある。

金権腐敗選挙ほかの、汚い選挙は撲滅すべきだが、世にゴマンといるそういう手合いは、当然その手口を公開するような本は書かない。その筋の世界の中で隠然と伝授されていくのみである。

一方、(議会制)民主主義の徹底として選挙の自由を広げる闘いを意識的に追及する陣営としても、本にまで書いてしまうとお上と他陣営を刺激しすぎて叩かれることは明白だし、手の内をさらすことで自分らの損害になってしまう。

我が組織内だけで伝授する方がはるかにメリットが多い。

「市民派」は、と言えはすぐ上の事情と重なる上に、当選したと思ったら次々と新しい闘いがあって、選挙ノウハウを書きたいと思っても書いている余裕がないことが多くて書けない。

かくして、政党などの選挙慣れした組織に属さない「選挙素人」に分かりやすくて実戦的なノウハウ本がほとんど出版されない、ということになるわけだ。「公選法解説」なんていくら読んでもよく分からないし、面白さがさっぱり湧いてこないで、ゲンナリするばかり。

@そういう出版状況の中で、戸田が断然お勧めするのが、

「自由に出来る選挙活動」・かもがわ出版 自由法曹団京都支部(1800円+税)だ！

民主主義の根幹(のひとつ・蜂起の自由だってあるのだから)たる選挙の自由を拡大していく戦闘的立場から、公選法の悪法たる所以を解き起こしつつ、現実の選挙を闘う姿勢と具体戦術を解説している所が素晴らしい。

共産党本体ではなくて、共産党系弁護士集団の自由法曹団、しかも京都支部という所で作成したところが面白い。かもがわ出版も共産党系の出版社である。この本は注文してでも買うことをお勧めする。

まあ、さすがは議会主義偏重で(失礼！)40年以上もやってきた共産党勢力だけのことはある。

日本の選挙というものの基本構造を知る意味で必読書だと思う。

市民派の選挙マニュアルとしては、

「市民派候補のための選挙必勝マニュアル」・「虹と緑の500人リスト」作成 500円

本屋には置いていないので、戸田HPや若竹りょう子HPなどこの所属議員のHPからリンクできるから問い合わせることをお勧めする。

法文とその現在の解釈などもできれば手元に置いておいた方がいいだろう、という意味では、

「統一地方選挙の手引き」(株)ぎょうせい発行 自治省選挙部編 1800円

お上がどのように解釈運用しているか、の資料でもある。

投票1ヶ月くらい前の(だったかな?)「候補者説明会」で無料でもらえるが、もっと前に入手しておく方がいい。もっとも、「最近の改正事項」にさえ気を付けておけば、少し前の古本でも構わないので議員など人からもらう手もある。

「公職選挙法罰則精解」 日本加除出版 4300円

というのも買ったが、結局たいして読まなかったなあ。

@最近ではHPで解説している所や議員養成の「バックアップスクール」などもあるので、そちらにもご注目を。

@後で別個述べるが、選挙のスタイルは千差万別だし、体験者それぞれの「耳学問」があるので、「法文」と「可能な戦術」と「地域の実情」をきちんと区別して把握するために、「船頭多くして・・・」状態でアタフタしないようにするために、法文と現に合法的に（もしくは違法とはされずに）行われている戦術を記した本は、手元においてしっかり研究しておくべきである。スタッフ中枢の認識一致のためにも。

＜3；地元の選管と府県の選管＞

これは平日の日中に行くしかないのだが（選挙期間中は別）、選挙出馬を少しでも考えていたら、できるだけ早く行っておいた方がいい。

戸田が体験した限りでは、およそ役所の中でこれほど市民に親切丁寧に対応してくれる所はない。

その「市民」が「候補者」を目指している、議員を目指している市民だということで、「一般市民とお役人」の関係が「議員先生と行政職員」の関係に変化する可能性を多分に秘めていることが、これほどの丁寧さを生む要因なのだろうと、戸田は想像している。

こちらが基礎知識がなかろうと、泡沫候補っぽかろうと、バカにした感じはみられなかった。（地域によって違うかもしれないが）別にこちらの内情を探るような姿勢は全くなく、公選法を踏み外さずつつがなく選挙をやって欲しい、分からないことは手取り足取りお教えしましょう、そういう感じなのだ。

ここらへんが弾圧抑圧を主眼とする警察と違う所だと思う。

選挙活動への資金カンパをどう扱うのか、後援会の届け出はどうすればいいのか、などなど何度でもかんで含めるように教えてくれるし書類の書き方も教えてくれる。

まったく役所の他の部署もこうあって欲しいものだ、と思わせてくれる所だ。少なくとも候補者にとってはね。

もちろんお役所だから、「悪法も法なり」で指導するわけだが、実際に話してみてその許容範囲や指導重点がどこらへんにあるのか、の目安になるし、また「全国一律基準」を標榜する官僚機構である以上、「他市・他府県の選管で現実に認められている事実」を具体的に提示すれば、「この街ではそんな例がない」とは言っても強硬な指導はしにくくなり、そこから選挙の自由拡大の新たな先例が生まれることになる。

（警察は別の理由で弾圧にかかることがあるので、要注意であるが・・・）

＜4；現職議員や選挙闘争の現場＞

なんによらず、現場を踏むというのが大事やからね。選挙や議員という現状の市民には内実が分からない（このこと自体がホントはおかしいのだが）世界に挑むんだから、ちょっとでもその世界の空気に触れてみるのは有意義だと思う。

仕事を持った身で、とくにその世界に知り合いがいなければなかなか行きにくいものだが、自分の選挙をやる前にぜひ機会を作ってみることをお勧めする。

@府県の選管に電話でも聞けば、いつどの市町村で選挙があるか分かるから、そこに行ってみる手もあるし、選挙に関わっている知り合いがあれば一緒に手伝うのもいい。何事も体験は有意義である。（それを絶対視さえしなければ）

@議員は候補者のピラ、特に選挙用リーフはこまめに集めておいた方がいい。

いざ、自分が作ろうとする時に良かれ悪しかれ、ものすごく参考になる。何にもなくてゼロから考えるのはかなり大変です。

=====

＜コマンダンテ戸田の、君に勧める突破者議員への途＞（4）

「選挙の実際をご紹介。キミの選挙スタイルを決めるのはキミしかない！」

=====

④組織のミコシに乗らない「(市民派)議員」というと一般的に「自己主張と押しの強い性格」の人間だろうと思うだろう。確かに戸田なんか実際その典型みたいなもんだが、私が議員になって分かったのは、一口に「市民派議員」と言っても実にいろんな性格の人がいることだった。

会合の時にうっかりするとどこにいるのか分からないくらい控えめでおとなしい人もいるし、気の弱い人もいる。市民活動家あがりだけでなく、主婦からそのまま議員になった人、学生からすぐ議員になった人……老若男女様々なタイプの人が議員になっている。

当然その背後には、その議員を支える様々なタイプの支援者・参謀がおり、選挙区事情が存在している。

だから、戸田個人としては「候補者たるもの、絶対的に強固な意志を持った、監督兼、脚本家兼、主演俳優兼、プロデューサーでなければならない」、という確固とした信念は持っているものの、そういう現実を見れば、「候補者・支援者・参謀・選挙区事情の総和が勝敗を決する」、というのがより正しいと言わなければならないだろう。

候補者本人が控えめタイプの人であっても、「そこがいいところ」と思うファンが多かったり強力な参謀がいたりすれば当選できるし、逆にそういうものがなくても候補者がグイグイと状況を開拓して当選できる場合もある。

だから一般に考えられるような「自分の性格が議員向きかどうか」にあまりとらわれる必要はない。「候補者たるもの、こうあらねばならない」という「選挙経験者」からの決めつけにもそうビビる必要はない。

ただ、「自分は議員になりたいんだ」、「それはこんなことをしたいからだ」、というはっきりとした意志と動機は候補者に絶対必要だとは思う。

<こんなに千差万別、選挙のスタイル。選挙の実際をご紹介。>

④我が電脳突破党の小山市議は、地道に市民運動と会社員をやりながらなんと6回落選、即ち24年間連続して落選してもめげずくじけず、楽天的に出馬を続け、名物候補者として7回目で当選した。小山さんのことだからもし7回目で落ちていても、あのゆったりとした小山スマイルで悠々と8回目に挑戦していたことだろう。

力まず気張らず、会社員が取れる有休プラスアルファの範囲内で仕事を休んで、カネをかけずに楽しみながら手作り選挙をやる、というのが小山さんのスタンスだった。(もちろん地道な努力と工夫の上で)

④ウエストサイド砂川の場合は、町議選公示の直前になって「このままでは定数きっちりの候補者しかなくて選挙なし継続になってしまう」、ということで急遽思い立って立候補して、公式の選挙ポスターすら手描きポスターをカラーコピーして作るほどに選挙体制ほとんどなしの状態でも当選を勝ち取った。

(薬局経営者たる砂川クンの若さと人柄への期待がもたらした勝利だろう。他の町議選だけでなく市議選でもこういう例が時折ある。)

④なんのバックもない若いサラリーマンが、奥さんと友人の協力を受けて半年間のガンバリで、大きな市でいきなりトップ当選した例もある。2ヶ月とか1ヶ月だけの運動で当選した例もある。

④コマンダンテ戸田は、というと、「選挙はひとつの戦争だ！」の信念の下「一撃必殺！」の気迫で、「地盤・看板のない新人など当選したことがない」土地柄の門真市で見事当選したとは言え、以下のような膨大な労力を払って、やっと最下位の1313票当選であった。

☆当該選挙区内では組合員数名しかない労組ながら、戦闘的な連帯ユニオンの組織内候補というバックアップ体制と地域市民運動有志の合体、という形での出馬決意が選挙1年ちょっと前。

会社を休職して選挙準備活動専念を始めたのが8ヶ月前。

- ☆8ヶ月前から結成した「門真くらしを創る会（代表；戸田ひさよし）」という市民団体のニュースを6号、総計17万枚（！）配布。
- ニュース表題に「私達は4月の門真市議選に挑戦します！代表；戸田ひさよし」、と記載しておいたのが「選挙の自由拡大ギリギリ戦術」の典型。
- （これらの配布を中心とした労組動員、通算述べ500人以上。もちろん地元支援者と他市友人のボランティア活動も。）
- ☆訴える内容としては、子育て支援政策充実と、行政・議会のガラス張りとは市民参加を軸に、市民の知らない議員報酬の実情を公開しながら、おかしい出席手当の問題を指摘し（共産党も口をつぐんできました、ということで優位に立つ）、「市民が議員の勤務評定できる仕組みを作ろう」と絞られていった。（左翼市民派としての政治性を明確にしながら）
- ☆規制の厳しくなる投票前6ヶ月の少し前に、戸田の似顔絵ポスター1500枚を貼り出して一目を引く。（ギリギリ戦術）
- ☆戸田の経歴や政策を紹介する「後援会リーフ」は7ヶ月前には単色刷りながら第1刷を発行し、手直しや推薦者増加を図りながらカラー印刷の第4刷に至るまで、通算計1万部以上を捌いた。
- ☆5ヶ月前から専用の事務所（家賃月10万円）を借り上げ、事務員を配置（初めパート、のち専従）。パソコン・コピーなど諸機器・機材を設置。巨大看板も掲げた。・・・労組の支援体制で。
- ☆「出馬への瀬踏み行為」として「個々面接」で訪問したのが3800軒、少しでも会話できたのが約2400軒。
- （よそでは1万軒訪問した市民派もいる）
- なおこれは、断じて「公選法で禁じられている戸別訪問」ではない。
- （「戸別訪問は買収行為を発生させる」という決め付けで、公選法が全面的に戸別訪問を禁止していることには反対だが、そのことはここでは詳しくは触れない）
- ☆保育所・幼稚園前約25ヶ所で、各2回～3回のビラ配布。ここで顔会わせた市民約1500世帯。
- もちろん名前タスキをかけて駅立ち宣伝も。（合法）特製自転車でも市内各地で宣伝して目立つ。
- ☆映画上映・平和運動などを通じて培ってきた、沖縄出身者とのつながりや、居酒屋・喫茶店などのお店に推薦人として名前を出してもらったり、戸田のリーフやニュースを置いてもらったり、の支援者の拡大。
- （選挙前でニュース置き協力30店以上、うち店名公表約20店。こういうやり方はかなりユニークな戦術である）
- ☆2ヶ月前から専従の事務局長を配置。
- ☆選挙本番では、主として有給で宣伝隊・電話係を結成。様々な人脈を駆使して国会議員（辻元清美さん）や市民派議員、日本一の講談師＝旭堂小南陵さんやミュージシャン、市民活動家にも手弁当で応援に来てもらった。
- 前半は自転車隊での街宣、後半は労組宣伝カーにて協力に街宣。
- （スポット演説中心で、単なる名前の連呼はしない）
- ☆選挙本番の半分以上は、夜8時以降にも一人で駅立ちあいさつ。（スピーカーを使わなければ合法）。
- 特に最終日は夜12時まで貫徹。
- ▲戸田本人与選挙陣営がこれだけの労力をかけても、たったの1313票で次点と29票差という薄氷のギリギリ当選だったが、やり方が間違っていたとは全く思わない。門真ではこうでしかありえなかったのだ。
- なぜそう断言できるのか？それは戸田が地域の実情と選挙民の意識動向を肌で感じていることに絶対的な自信があるからに他ならない。

＜キミの選挙スタイルを決められるのはキミしかいない！＞

さていよいよキミの選挙についてである。

上記のことを踏まえた上で、あえて戸田の意見を述べる。参考になると思う所だけ参考にしてくれ。

@あらかじめ用意された地盤・看板・カバンに乗っかってやる選挙でない以上、候補者たるキミが全てをプロデュースする他はない。キミの訴えたいこと、議員としてやりたいこと、キミのキャラクターと人脈・資金・生活形態、キミを応援しようとする人々のありよう、既存議員の勢力分布や土地柄など選挙区の事情……などの中からしかキミの選挙のスタイルは出てこない。

今まで誰もやったことのない、全くキミだけのオリジナル選挙なのだ。

大いに人々の支援は求めなければならないし、知恵も借りなければならない。なんせキミは全くの選挙素人なのだから。いわゆる「選挙通」「事情通」の話を聞くべきだし、向こうも善意からいろんなことを教えてくれるだろう。しかし、他人の意見はあくまでも参考として聞くべきであって、それに振り回されてはならない。

@なぜならどんなに詳しい「選挙通」といっても、「自分が候補者となってゼロから全てをプロデュースした経験」のある人は滅多にいないのだ。

そしてキミと同じ選挙区で、キミが置かれているのと同じ条件で選挙をやって当選した経験のある人は誰もいないのだ。候補者にならなければ分からないもの、見えてこないもの、というものが確かに存在するし、「ゼロからのプロデューサー」でなければ分からないことも、その地域の住民の肌合いを直に感じている者でないと分からないことも存在する。

キミが従っていい人がいるとすれば、キミ以上にキミの選挙のために時間と労力と資金を割いて情熱を傾けてくれる人だけだ。そんな人が普通いるだろうか？まずいいない。だったら全てを決定するのはキミしかいない。

候補者は「たくさんの耳を持つ独裁者」であるべきなのだ。

(まあ、キミと異体同心的なパートナーがいればいいんだが……)

@もちろんキミがあれこれ取捨選択して、選挙の方向を決定していくためには、キミ自身が選挙のことをどん欲に吸収して知っていかねばならないし、地域の中でのキミへの期待や注目を客観的に語れるだけの裏打ちを持たなければならないことは言うまでもない。

そのために他市の現職議員や選挙経験者からアドバイスを受けて、街の人々の中に積極的に分け入ることが当然必要になってくる。

ただし決定主体はあくまでキミだ。(瞬間瞬間に孤独な決断を求められる、という意味では突破者議員になってから置かれる状況の予行演習でもある)

<10万人から嫌われても2000人に支持されたら当選できるのだ>

@実際は2000人の人からしっかり支持される人材が10万人から嫌われることはないけれども、それくらいの心意気でいけ、ということ。

10数から数十の議席が用意されている自治体選挙では、八方美人的に満遍なく愛されようとする必要はない。「当選ライン+200を狙う」、割り切った戦術でいいのだ。(上位当選できればより結構だが)

ましてや無所属新人だもの、ありきたりのことを言ったりやったりしてどうする。

既存の議員と全く違う切り口で政治を語り、行動を起こしていくことこそ当選の筋道である。

営業マン的に言うならば「商品の差別化」を図っていかなければならない。

既存の議員にウンザリしている層の発掘と顕在化こそ、やらねばならないことだ。

@物事には全てプラスとマイナスがある。マイナスが生じて、一方で生じるプラスの総和が当選ラインを上回ったらいののだ。

例えば戸田の選挙では、「派手に動くと現職議員を刺激して叩かれる」という意見もあったが、これは「活きのいいヤツが出てきたな」という期待と裏表であるし、「右翼も道を譲る連帯ユニオン宣伝カーじゃ、市民が引いてしまう」という要素は、「あれぐらい戦闘的な労組がバックにあるのなら心強い」という安心感と裏表である。

もうひとつ重要なのは、「嫌われない」＝「投票してくれる」の結びつきは非常に弱いものでしかないことだ。無難なことをしていても、それがあえてなじみのない新人に票を入れてくれることに結びつくとは考えにくい。

そうではなく、「好かれる・期待される」ことこそ得票に結びつくのだ。

必ずしも表には出てこない部分もある、そういう好悪の針の振れ具合を的確にキャッチできる感性がキミにあれば良い。

「嫌われる」ことを恐れてはならない。キミの真面目な気持ちをしっかりと受け止める人が必ずいるのだ。

・・・・・・以上で突破者議員への途（４）を終わる。

君に勧める突破者議員への途（５）「選挙やるには最低限これが必要だ！」

=====

以下はあくまで、市議会選挙を中心とした、ひとつの意見である。都道府県議会は規模が違だし、国会となると戸田はさっぱり分らない。

<まずは諸経費の話>

（４）で紹介したように、戸田の場合は「市民派議員としては」異例に「選挙と関係ない市民活動・労組活動」と「選挙活動」に多くの費用を投入している。

（公選法では基本的に「選挙の公示以前に選挙の事前運動をしてはならない」と規定しているので、合法主義の戸田は「選挙の事前運動」を当然ながらしていない・・・・・・のだからこう区別するのが正しい。）

「法律的には断じて一緒ではない、それら」をあえてひっくるめてみると、（数字はうろ覚えで一部不確かだが。計算推測は興味のある人がやってくれ）

▽８ヶ月間休職して無給になった戸田の生活費が、国保年金込みで毎月 33 万円と 12 月ボーナス相当 50 万円
・・・・・・計約 300 万円。

▽選挙後に還付されるとは言え、供託金 30 万円の他に法定のポスター・ハガキ・車両・運動員費用など合わせて 40～50 万円だったかもっといったか・・・・・・

▽事務所の家賃が月 10 万円で計 55 万円。（敷金はなし）

▽事務員と事務局長の人件費がまあ一人につき 1 月 10 万円代だけれども・・他バイト代がいくらか・・

▽６ヶ月前直前のポスターが約 30 万円。市民団体ニュースが 1 枚あたり 3 円か 4 円についたかどうかだったか・・
後援会リーフが 1 枚平均 5 円くらいか。

▽ハンドスピーカーなどで 10 万円。中古パソコンや関連機器・ソフト・ＩＳＤＮなどで 15 万円くらいか。

▽事務所の電話・ＦＡＸ・コピー費用（コピー機は借り物でも）など諸々。

▽事務用品・文具などどっさり。その他なんやかんやの諸雑費多し。

@この戸田の場合は、労組運動としての地域宣伝や、当選後のＨＰ活動はじめ、より幅広い活動をも展望した、いわばかなり「欲張った展開」をしたので、費用がかさんだが、普通はここまでやらなくてもいいだろうから、

費用はもっと低く抑えられる。

6ヶ月前直前のポスターはなくてもいいだろうし、リーフも単色だけでも悪くはない。事務所もなしとか、1ヶ月だけ、とかの手もないことはない。

「少数精鋭で経費節約しながら派手にやる」工夫はいろいろできるだろう。

@ただし、ケチるべきでない所でケチって当選を逃してしまうのはもったいない。

当選したら年収1000万円以上あるのだから、必要な所は借金してでもやるべし。（当選後の猛烈活動で大赤字という例もあるけどね。）

選挙前半年ほどには、休職するか退職するかして選挙準備に専念できるようにした方が良くと思う。やるべきこと、調べねばならないことは無数にある。最低でも3ヶ月くらいは専念できる体制に。

出馬の意思表示と諸準備は早ければ早いほどいい。（普通は）

年休プラスαの活動で1発当選できる可能性は、まずないと思うべき。

事務局的に専従でサポートしてくれる人も必要と思う。この人自体の慣れと訓練も要る。

諸々の雑事と諸対応を候補者一人が抱え込むのはよろしくない。家族でもいいけれども2ヶ月くらい前からしっかり稼働できれば心強い。

＜最低限これだけは必要だ！＞

@「議員になってやるぞ！」という候補者の強固な意志。

@候補者と側近が借金してでも最低限の資金を作る意志。

候補者なら50万円から100万円程度、側近なら10万円程度はカネを出資して、選挙の決意を固めるべし。

議員を生み出す事業はそれに十分見合うだけの価値がある！

（貧乏市民レベルでは苦しいカネだが、そこに意義がある。当選すれば年収1000万円以上なのだから・・・）

自分がそんだけのカネを出したら必死になるし、他人にも迫力を持って呼びかけられる。

候補者が自分の学生時代や子ども時代の同期生にカンパ求めるだけでなく、側近支援者もそれができるようになったら強い。

（ボーナスカンパなどの訴えは資金集めであると同時に、政治参加の訴えでもある）

清く正しい選挙をやるにしても、選挙専念の間の生活費と印刷代、事務費用、機材費用などがドンドンかかることが、ピンとこないのが日本の市民運動の弱いところである。（戸田もかつてはそうだった。）

「市民が政治家を育てるカネを出す」習慣は、キミの選挙から作られるのだ。

@選挙直前・本番体制への早くからの人員確保。

本番の1週間毎日、事務局長・運転手・弁士（ウグイス）・助手2名の最低限5人と宣伝カー確保を早くからしておくこと。（候補者入れて宣伝隊で4人、事務所に2人の最低限ユニット）

「選挙本番前には大勢は決まっている」というのは半面だけの真実で、特に突破者議員の場合、本番での演説宣伝活動が極めて重要。

早い時期から「選挙はひとつの戦争」として、この期間に「日常生活を投げうってはせ参じる」意志一致を仲間からとっておくか、お金を払ってでも確保しておくべき。

候補者は「自分がこんなに必死にやっているのだから、仲間も判ってくれるだろう」と誤解と遠慮をして本番直前に青くなることがある。候補者本人は少なくともこの時期には人の手配などで頭を悩ます必要がないようにしておきたいところだ。

公示当日のポスター貼り要員や、電話かけとか外部への対応など他の作業もいろいろあるし、ボランティア呼びかけも必要だ。各部署の骨格はあらかじめ確保して意志一致しておいた上で、ボランティアの臨時参加者を盛り上げていくのが筋である。

@ワイヤレスマイクの使えるハンドスピーカー。

これは借り物でなく、必ず自分の所有物として持っておかねばならない。何ヶ月間も自由に使いねばならないからだ。意外に高価で新品で10万円近くする。小型で2～3万円のものもあるが、持ち運び便利という利点もあるが、声の通りがやはり値段相応であるので、そこらが考えもの。

選ぶときは必ず雑踏の中でどれほど聞こえるか、試験するべきである。

ワイヤレスマイク使用は絶対条件。また同時にセットの棒マイクだけでなく、ワイヤレスのピンマイクも買うべし。これがないとひとりでビラまきながらの宣伝ができないから（こんな時ばかりなのが現実である）、必ず入手すること。

@自由に格安で使える印刷機

戸田はこの方面に疎かったので、コピーと印刷屋経費の出費が多かった。

砂川君は中古印刷機を事務機屋から10万円で買って、月800円のメンテ代とインク代込みのカウンター料金で格安印刷をしている。黒インクだけで刷るなら印刷屋に出さなくて充分だし、5枚以上ならコピー機よりもずっと安い、という利点は大きい。

ちゃんとした主張のあるビラを本番前に「市民運動として」多くの人々に読んでもらうのが突破者議員にとって極めて重要である。選対のレジュメ、資料印刷なども多種多様に必要だし、議員になってからはますます必要。万一落選しても必要だし、活動をやめる場合でも十分に転売できるのだから、ぜひ確保しておくべきである。

（借りるなり、近所で自由に使わせてもらうなりも含めて）

@選挙本番の宣伝カー

これは借り物でよいが、必ず必要なものである。

現職議員・労組・諸団体をあたるべし。レンタルでもあるだろう。器用な人がいれば、スピーカーセットを買ってきて、看板も自作、という手もある。

「家の中にいても声が届く」、「道路一本向こうにも聞こえる」という点でハンドスピーカーとは決定的に違う利点がある。

「うるさい宣伝を控えて」「手作り選挙の感覚を大切に」思うことに偏って、ハンドスピーカー・自転車宣伝に限定するのは直近の人に好感を持たれるとしても、選挙戦としては大きなマイナスである。

戸田はそのことを自分の選挙で実感した。

連帯ユニオン宣伝カーは限定したスポット演説だけに使い、車での流し宣伝なしで、自転車・ハンドスピーカー宣伝を4日も続けたが、支援者各層から「全然声が聞こえないぞ」「ホンマに選挙やっとなのか？一度も声も姿も見てないぞ」という疑問・心配の声が相次ぎ、「戸田さんは今回顔見せだけ」という他陣営からのデマまで出る始末。

庶民にとって選挙はお祭りであり、自分が応援する候補者の声を聞いて手を振ることがひとつの「決起」であり、喜びであり政治参加である現実は無視できないことを学んだのだった。

「ちゃんとしたことをやらないと、マジメに選挙やる気がない」と誤解されてしまう面もまた存在する。

@候補者紹介（後援会）リーフレット

人から人に紹介してもらい、知ってもらうにはこれが不可欠。いざ作ろうと思うものすごく悩まされるから、最初に着手すること。

自分の主張・経歴を上手にまとめ、推薦してくれる著名人や地域の人々にお願いしていくのは結構手間のかかること。見やすくセンスよく作るのも工夫が要る。

パイロット版を作ってからそれで推薦お願いをしていく手順になるだろう。

相手のコメントや写真も欲しいところ。地縁血縁でなく主張を売り込む突破者選挙はこれがないと始まらない、と言っても良いくらいだ。

市民ビラのように無差別配布はできないが、「後援会入会検討用資料」とか「内部討議資料」とか片隅に書いておいて、街頭であれどこであれ「個々面接」の度に「ご検討下さい」とか言いながらドンドン手渡して捌く人もいるらしい。戸田はよく知らんけれども……

店に置いておいて、人目に触れさせるという手もあるかもしれない。

買収と選挙妨害以外での公選法違反による「当選無効」はない、ということや、「違反摘発」にはそれなりに確かな証拠が要る、ということは覚えておいてもいいだろう。もちろん戸田は「選挙の自由拡大の立場をとりつつも合法主義に徹する」ことは言うまでもない。（そうですとも）

@名前タスキと目立つ自転車

知名度ゼロの新人が少しでも市民に印象付けるには必需品。タスキは各地で公明党がイチャモンつけているらしいが、「市議候補」とかの肩書きなしで自分の名前だけ書いている分には違法ではない。容認されている実例がゴマンとあるから大丈夫。

「目立つ自転車」のほうは、大多数の人々はまだそう思っていないが、戸田は必需品と考えている。

だって市町村議会選挙の候補者にとって自転車は日用の必需品なのだから、これを目立たせない手はない。ハンドスピーカーがすっぽり入る、カギ付きの巨大トランクを荷台に積みばどこにでも行って宣伝できるし、荷物も一応安心していれて置けるし、そのトランクに名前・似顔絵やスローガンを貼ることで「抜群の宣伝効果」をもたらす。

走っているだけ、置いているだけで宣伝効果があるこんな便利なものをなぜほとんどの候補者が採用しないのか、戸田としては不思議である。

マウンテンバイクに巨大トランクと荷物車用スタンドを取り付けた戸田の「アーバンライフスペシャル」号の勇姿は、戸田HPの中にあるはず。（なかったら近日中にアップしておきます）

@一貫したイメージ戦略の名刺・似顔絵・ポスター・リーフ選挙公報など

知名度ゼロのキミの一貫したイメージを選挙民（および周辺の人々）にどうやって浸透させるのか、これに頭を絞らなければいけない。「面白いと思ってもらえる」、「人目を引く」、「笑いが取れる」、「強い印象を残す」、「やる気と真面目さを感じてもらえる」……そういうイメージ戦略だ。

似顔絵マンガは使いやすさと印象の強さで、大変有効だからぜひ活用を勧める。（戸田は実は横山ノックのポスターからヒントを得た）

また、特定の支持者なしの有権者が誰に投票するかを決めるのには、「選挙公報を読んで」という回答が一番多いと言われている。（次が選挙ポスター）そこで、「おっ、コイツおもしろいな！」と新たな票を100・200と獲得できる可能性はかなりある。あだやおろそかにはできない。

以上で「突破者議員への途」（5）を終わる。